

朝鮮半島南部は、リアス式海岸であり、海岸線は複雑で多くの島が点在している。当時の金官伽耶(金海)地域は、現代より海が内陸部まで入り込んでおり平野部は殆どなかった。そのため、民の居住地は海拔2～7mの台地に散在し、王宮は海拔30mの丘陵頂上に造成された。

この地形上の問題から、金官伽耶では、稲作が出来る平野部が少なく、穀物資源は不足していたことから、広大な平野部をもつ北九州に穀物を求め「鉄と穀物」の交易が盛んにおこなわれることになった。この地域は、『魏志倭人伝』に出てくる「狗邪韓国」に相当する。

1. 朝鮮半島の鉄資源分布

(1) 斧状鉄板

形状から板状鉄斧と斧状鉄板に分類され、これらは3世紀を中心に三韓地域に分布する。『魏志辰韓伝』の記事に出てくる鉄は鉄板のこと。大きさは、長さ120～180mm、幅25～40mmの細型のものから長さ320～360mm、幅60～100mmの大型のものまでである。

(2) 鉄鋌

鉄鋌は、4世紀中頃百濟、新羅、伽耶地域に出現する。初期の鉄鋌の形状はバチ形で斧状鉄板に類似する。6世紀になると鉄鋌は小型化し非実用的なものになり、6世紀中頃の遺跡には出土が見られなくなる。

(3) 朝鮮半島における鉄資源の産出地

三韓時代の製鉄遺跡 (右図の番号が各遺跡)

A: 弁韓(後の**金官伽耶**)エリア: 1～8

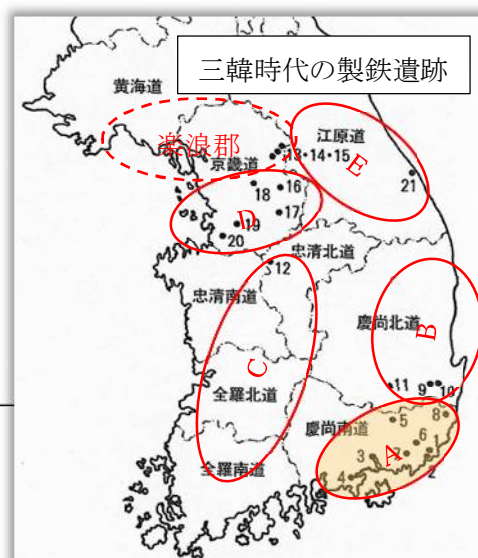
(1～2=釜山市 3～7=慶尚南道 8=蔚山市)

B: 辰韓(後の新羅)エリア: 9～11(=慶尚北道)

C: 馬韓(後の百濟)エリア: 12(=忠清北道)

D: 帯方郡エリア: 16～20(=京畿道) 後に百濟が併合

E: 濊エリア: 13～15、21(=江原道) 後に高句麗が併合



【閑話休題】「鉄鋌」という文字の初見は、『日本書紀』神功皇后46年の条「～時、百濟肖古王、深之歡喜而厚遇焉、仍以五色綵絹各一匹・及角弓箭・并**鐵鋌**卅枚～」である。

[説明1] 斯摩宿禰が使者を百濟の尚古王に派遣したところ、王は大いに喜び絹、弓の他に鉄鋌を40枚下賜した。 [説明2] 「尚古王」は百濟の第5代王(?～214年没)であるが、第10代までの王は虚構の人物とされており、『日本書紀』に登場する王は、「近尚古王」(?～375年没)のことで実際の百濟の初代王とされている。『古事記』では照古王と表記している。

2. 国内の鉄鋌出土状況

| 時代 | 古墳名・場所 | 鉄鋌枚数 | 備考 |
|-------|------------------|------|----------------|
| 5世紀初頭 | 行者塚古墳 (兵庫・加古川市) | 40 | 産地: 金海地区(金官伽耶) |
| 5世紀前半 | 永浦遺跡 (福岡・宗像市) | 不詳 | |
| 〃 | 南山4号墳 (奈良・橿原市) | 18 | 産地: 金海・釜山・咸安地域 |
| 〃 | 福間割畑1号墳 (福岡・宗像市) | 11 | |
| 5世紀中期 | 丸山古墳 (和歌山・紀ノ川市) | 4 | 〃 |

| | | | |
|----------------|---------------------------------|---------|------------------------------|
| 5世紀中期 | 野中古墳（大阪・藤井寺市） | 130以上 | |
| 〃 | 大和6号墳（奈良市） | 872 | 国内製造の可能性 |
| 〃 | 下山古墳（大分・臼杵市） | 13 | |
| 〃 | 千束台遺跡（千葉・木更津市） | 断片30片以上 | 付近に鍛冶跡 鍛造品か |
| 〃 | 旧練兵場移籍（香川・善通寺市） | 1 | 長さ18cm バチ形 |
| 〃 | 新開2号墳（滋賀・栗東市） | 不詳 | |
| 5世紀後半 | 宮山古墳（兵庫・姫路市） | 不詳 | |
| 5世紀前期 ～6世紀末 | 沖ノ島16号遺跡、正三位社前遺跡、 21号遺跡、6号遺跡 | 不詳 | 16号遺跡のものは、国宝 長さ 31cmと43cm |
| 6世紀中期 | 鞍塚古墳（大阪・藤井寺市）埋没 | 5 | |

【金官伽耶産鉄鋌の国内出土場所】

下図は、国際シンポジウム「5世紀の倭とアジア」 2022年 朴天秀氏講演レジュメより



3. 古代文書にみる交易(朝貢含む)の記録

(1)対中国交易(朝貢交易)

| 時代 | 史書・文書 | 交易品: 日本 ⇄ 中国・朝鮮 | 備考 |
|----------------|---------|--|--|
| 建武中元 2年(57) | 『後漢書倭伝』 | [倭・奴国]不詳 ⇄ [後漢・光武帝]金印紫綬 | |
| 永初元年 (107) | 同上 | [倭・帥升]生口160人 ⇄ [後漢・安帝]不詳 | |
| 景初2年 (238) | 『魏志倭人伝』 | [女王国]生口10人、斑布(更紗)2匹2丈 ⇄ [魏]金印紫綬、銀印紫綬、紡ぎ、蛟竜模様の錦5 匹、栗紋の毛氈10張、茜色絹布50匹、紺色絹布50匹 さらに、錦3匹、毛氈5張、白絹50匹、金8両、5尺刀2 口、銅鏡100枚、真珠、鉛丹50斤 | 【魏代の度量衡】 匹=4反 丈=10尺 尺=約24cm 斤=220g |
| 正始元年 (240) | 同上 | [倭国]答謝のみ ⇄ [魏]金帛(黄金と絹)、刀、鏡、采 幣(采配) | 使者:建忠校尉梯 儁(ていしゅん) |

| | | | |
|---------------|----|---|-------------------|
| 正始4年 (243) | 同上 | [倭国]生口、倭錦、絳青縑(紅青絹)、縣布(真綿)、帛布(絹と布)、丹、弓束(ゆづか)、短弓矢 ⇔ [魏]印綬 | 使者：大夫伊声耆・掖耶狗ら |
| 年代不詳 耆与以降 | 同上 | [耆与]生口30人、白珠(真珠)5千個(五十の誤りか)、青勾玉(翡翠?)2枚、雜錦20匹 ⇔ [魏]不詳 | 「枚」は豆类40俵分(『広辞苑』) |

*魏志(魏書)：撰者は西晋代の陳寿(233～297)。『三国志』の一書。『三国志』は、魏書第30巻、蜀書15巻、呉書20巻で構成される。『魏志倭人伝』は、「魏書烏丸鮮卑東夷伝」の中の各条(夫餘・高句麗・東沃沮・挹婁・濊・韓・倭)の1つである倭人の条の俗称である。

*『後漢書』：撰者は南朝宋の范曄(398～445)。本紀10巻、列伝80巻、志30巻の計120巻で構成される。倭人については、『後漢書東夷伝倭人条』に記述がある。

(2) 対朝鮮交易(倭韓交易)

| 時代 | 史書・文書 | 交易品：日本 ⇔ 中国・朝鮮 | 備考 |
|-----------------|----------------|--|------------------------------------|
| 3世紀前期～中期 | 『魏志韓伝』 | [倭]不詳 ⇔ [弁韓(弁辰)]鉄 * 弁辰とは、韓国東南部の伽耶地域。『魏志(書)』の構成では、弁韓、弁辰の2つ地域名が出てくるが、同一地域を示している。 * 倭からの交易品は記述がないが、魏への朝貢品(絹、真綿)と共通していると考えられる。 | 「韓」は帯方郡の南。「馬韓」「辰韓」「弁韓」の3つに分かれるとある。 |
| 神功9年 | 『日本書紀』 神功皇后 | (新羅出兵)新羅王は服従し、金銀・彩色綾・羅・綵絹を80隻の船に載せ献上。 | 羅は薄絹、綵絹は固織の絹 |
| 神功39/ 40/43年 | 同上 | 『魏志倭人伝』の記述と同一内容(使者到来と派遣について) | 正始元年・43年(240、243年) |
| 神功46年 (246年) | 同上 | 46年、斯摩宿禰の従者爾波移を百濟・尚古王に派遣。 [倭]不詳 ⇔ [百濟]五色の綵絹、角弓箭、鉄鋌40枚 | 角弓箭：角で裝飾した弓矢 |
| 応神14/ 15/16年 | 同上 応神帝 | 百濟王から、縫衣工女(裁縫士)・良馬2頭を献上。 王仁到来。 | |

4. 交易の痕跡(遺跡)

海上交易活動の比重が高い海村では、楽浪土器、中国銭貨や交易に必要な道具類が出土しており、吉野ヶ里遺跡、唐古・鍵遺跡などの巨大遺跡とは明らかにその性格が異なる。本項では、交易の結節点となった海村遺跡に注目する。

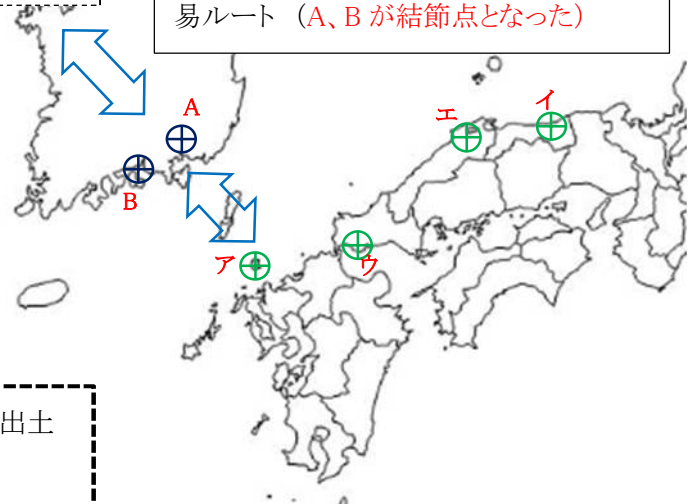
(1) 弥生時代中期以降

朝鮮) **A: 茶戸里遺跡**(ちゃどり/たおり)

- ・文具遺物(書刀、砧碼)出土
 - * 書刀(しょとう) = 木簡の誤字を削って修正する刀子
 - * 砧碼(ほうま) = 銭の重さを測る天秤
- ・倭系産物
 - * 北九州産銅矛、弥生土器

楽浪郡

楽浪郡⇔茶戸里/勸島⇔北部九州の交易ルート (A、Bが結節点となった)



朝鮮) **B: 勸島遺跡**(ぬくと)

- ・商文具遺物(権、石硯)出土 弥生式土器出土
 - * 権(けん) = 棹秤に使う錘(おもり)

九州北部) **ア:原の辻遺跡**(老岐市) 「一支国」の王都

- ・商文具遺物(銅権、銭貨)出土 船着き場
- * 銭貨=中国銭貨(半両銭、五銖銭、貨泉)4~25枚



西日本) **イ:青谷上地寺遺跡**(鳥取市)

- ・商文具遺物(石権、銭貨)出土
- * 銭貨=中国銭貨(半両銭、五銖銭、貨泉)4~25枚

西日本) **ウ:沖ノ山遺跡**(宇部市)

- * 壺に中国銭貨500枚以上

西日本) **エ:田和山遺跡**(松江市)

- ・商文具遺物(石硯、砥石)出土 * 砥石は墨を磨るためのもの

田和山遺跡出土石硯片



(2) 古墳時代前期

① 西新町遺跡(福岡市早良区西新) 3世紀後期以降

位置: 「伊都国」と「奴国」の中間地点(⊕ 印)

あ: 「伊都国」の想定場所(糸島市三雲、前原)

= 三雲・井原遺跡、平原遺跡を想定

い: 「奴国」の想定場所(福岡市博多区、春日市)

= 須玖遺跡群を想定

- ・渡来系集落の特徴を呈す。
- ・建物: 竪穴住居9棟、オンドル式煙道、排煙施設
- ・土器: 甕 (布留式系)
- ・石器: 硯5個 (以前の個数は北部九州全体で8個)
- ・搬入土器: 砂礫の分析により、布留系、山陰系土器を検出

搬入が明白なもの: 河内の胎土(閃緑岩質岩起源の砂礫)、播磨の胎土(流紋岩質岩起源の砂礫)。

- ・金属: 板状鉄斧(長方形の一端がバチ状) 全長33.4cm

折り返し曲げ鍛接した極低炭素鋼(炭素:0.01~0.02%)、表層に浸炭処理。

鉄素材の産地は、朝鮮半島から中国南部あたりの可能性。

② 三雲・井原遺跡番上地区(福岡県糸島市) 弥生時代中期~古墳時代前期

当遺跡は、次の出土物から『魏志倭人伝』が記述している伊都国の王都と考えられる。

- ・大量の楽浪系土器: 総数50点以上を確認しており、このように楽浪系土器が集中的に出土する遺跡は現在のところ当遺跡だけである。
- ・楽浪からの渡来人が滞在: 大量の楽浪系土器が集中していること、及び、『魏志倭人伝』の記述に、楽浪郡からの使者は伊都国の沿岸部で品物の検査を行うため、「郡使往来常所駐」(郡使の往来常に駐まる所なり)とあること。この2点から楽浪からの使者はこの地に滞在していたことが推定できる。
- ・弥生時代の石硯の出土: 長方形板石硯(長さ6cm+ α 、幅4.3cm+ α 、厚さ6mm)
硯は漢代において最も出土例が多く、漢代の硯は、粉末状又は粒状の墨丸を硯の上で砥石を用いて磨るので、現代の硯のみられる「海」(=墨汁を貯めておく窪み)はない。



⇒ 硯の出土により、下賜品や交易品の返礼書や受領書などが作成されていたことが考えられる。

5. 倭国の産物(交易品)

(1) 人的支援

① 生口(せいこう)：中国正史にみえる奴隷の一形態。貢「物」としての奴婢を呼称した。「物」としての扱いであった。『後漢書東夷伝』、『魏志倭人伝』に記述がある。

② 半島への軍事援助：高句麗の南進圧力に対して、百済は対抗策、新羅は従属する戦略を採った。

高句麗の圧力は新羅を通して伽耶地域にも及び、そのため伽耶南部諸国は百済と結び、百済・伽耶が倭との連携を深めて高句麗に対抗した。これが5世紀以降に倭王権が軍事化することに繋がる。

- ・ 欽明5年(543) 新羅の侵略から任那を防衛するために精兵を配置。
- ・ 欽明14年(553) 百済の要請により、良馬2頭、船2隻、弓50張、箭五十具を援助。
- ・ 欽明15年(554) 百済支援のために内臣(うちつおみ)が馬100頭、軍船40隻を派遣。
- ・ 欽明17年(556) 百済救援のために兵1000名を送る。(562年伽耶滅亡、663年百済滅亡)

(2) 主要産物と産地

① 穀物(米など)

主要水田遺構(弥生時代)

A. 菜畑遺跡(佐賀県唐津市) 縄文末期～弥生時代 **日本最古の水稲耕作遺跡**

水田遺構は約18㎡で4枚の田。栽培方法は直播と推測されている。

B. 板付遺跡(福岡市博多区) 縄文晩期～弥生後期

② 玉類(翡翠、瑪瑙)

- A. 糸魚川市姫川流域(新潟県) 翡翠
- B. 宮崎・境海岸/ヒスイ海岸(富山県) 翡翠
- C. 玉造・花仙山(島根県) 瑪瑙、碧玉
- D. 天神山貝塚(福岡県糸島半島) 真珠

③ 丹(辰砂・水銀朱) 硫化第二水銀

水銀鉱床群は、紀伊半島から四国、中部九州に至る中央構造線上に集中する。(右図参照)

A. 大和水銀鉱床群 大和水銀鉱山

場所：奈良県宇陀市

B. 伊勢丹生水銀鉱山(三重県)

縄文時代の採取記録がある。

C. 阿波水銀鉱床群 水井水銀鉱山 若杉山遺跡(徳島県阿南市) 弥生時代後期(1～3世紀)



上図の出典：『日本民族文化大系3 稲と鉄』

【閑話休題】地域の墳墓からでる辰砂(水銀朱)の産地を調べる科学的技法に、硫黄同位体比を調べ比較する方法がある。この方法で調べると、島根県西谷3号墳、京都府大風呂南1号墓で使われている水銀朱は同位体比+7～+8%前後の値を示し、中国泰嶺産地の鉱山のものと一致することが判明した。この鉱山から北に向かえば、秦の始皇帝の都西安に至る。

(出典：『資源地質59』 随筆「古代辰砂の故郷」 島崎英彦 2009)

(3)海上移動手段(船など)

『日本書紀』の欽明紀と皇極紀に、「同船(もろきふね)」という言葉が出てくる。

同船(もろきふね)：「諸木船」の意味で、多くの木材を接合して造った船のこと。別記で「母慮紀舟」もある。

①『日本書紀』 欽明紀十四年六月の条に、百済の支援として、「仍賜良馬二匹・**同船**二隻・弓五十張・箭五十具」の記述がある。(意味： 良馬2頭、諸木船2隻、弓50張、箭50具を下賜した。)

②『日本書紀』 皇極紀元年八月の条に、「百済使參官等罷歸。仍賜大船與**同船**三艘」の記述がある。(意味： 百済の使者が帰途に就いた時、大船と諸木船を3隻下賜されたということ。)

出航の夜に、嵐によって船が岸に当たって壊れたため、改めて、船を授けたとある。

古代船の発達は、単材刳船→複材刳船→準構造船と変遷した。

a.単材刳船： 所謂、丸木舟のこと。

b.複材刳船： 刳船部材を前後に継いで大型化した船。船首、胴、船尾に楠などの部材を継ぎ、さらに、船体を長くするために、刳船部材を前後に継ぐ技術が生まれた。複材刳船は、積載量が限られ、耐航性も劣るため川での運航にかぎられた。外洋航海には、準構造船が必要であった。

c.準構造船： 複材刳船の船首・船尾・両舷に別材、舷側板を付けて、喫水を深くして積載量を大きくし、耐航性も高めたものが準構造船である。船形埴輪でみる多くの船形は準構造船である。

以上のことから、「同船」とは準構造船のことと思われる。

【金官伽耶の船】 出典： 韓国 国立金海博物館 HP 出土場所：2点ともいずれも慶尚南道



写真左：「船形土器」

- ・出土場所：昌原市 縣洞
- ・サイズ： 全長14.6cm



写真右：「船片」 船首、船端の横板上部と思われる。

- ・船の全長は8～15mと推定
- ・材質： 本体はクスノキ、くさびは杉、櫓はクスギ。
- ・出土場所：金海市 鳳凰洞 119-9 番地遺跡
- ・サイズ： 全長390cm

③樹種

『魏志倭人伝』では、多様な樹種を紹介している。それらは次の通り。

- ・柀(ダン/ゼン) = 楠の類 一説に梅
- ・桴(チヨ/シヨ) = どんぐり、とちのき(茅)
- ・予樟(ユーシャウ/ユーチャン) = 楠
- ・榎(ボウム/ジュウ) = ぼけ
- ・檜(レキ/リヤク) = くぬぎ(櫟)
- ・「投」 = 杉の誤字
- ・樞(キョウ) = 樞
- ・烏号(オゴウ) = 山桑(蚕の飼料となる)
- ・楓香(フウキョウ) = 楓(フウ)、古語では「おかつら」

④倭国の木材が朝鮮半島で使用された例；

- ・高野槇(こうやまき) = 日本固有種。高さ30～40mになる常緑針葉樹。耐水性に優れ、船の用材にも使われた。百済第25代武寧王(462年～523年)の木棺には高野槇が使われている。

【参考文献】

- ・論文「東アジアにおける日本列島の鉄生産」 富山県埋蔵文化財センター 関 清
- ・『文化財と技術 第7号』「百済の鉄と製鋼技術に関する試論」 李東冠/武末純一 2015
- ・『国立歴史民俗博物館研究報告 第110集』「弁辰と伽耶の鉄」 東 湖 2004
- ・『国立歴史民俗博物館研究報告 第110集』「文献からみた伽耶と倭の鉄」 鈴木靖民 2004
- ・『国際交流の古代列島』 田中史生 角川選書567 2016
- ・『越境の古代史 倭と日本をめぐるアジアネットワーク』 田中史生 筑摩書房 2009
- ・『弥生時代 (列島の考古学)』 武末純一 河出書房新社 2011
- ・『西新町遺跡 3』 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 375 集 福岡市教育委員会 1994
- ・「三雲・井原遺跡番上地区現地説明会資料」 糸島市教育委員会 2016
- ・国立歴史民俗博物館研究報告 第 110 集 「韓国の倭系遺物」 高久健二 2004
- ・国立歴史民俗博物館研究報告 第 110 集 「文献からみた伽耶と倭の鉄」 鈴木靖民 2004
- ・九州大学学術情報リポジトリ「伽耶古墳の発掘」 西谷 正 1994
- ・福岡市埋蔵文化財調査報告書第 375 集 「西新町遺跡 3」 福岡市教育委員 1994
- ・『資源地質59』 随筆「古代辰砂の故郷」 島崎英彦 2009
- ・『日本民族文化大系3 稲と鉄』 「水銀 民族と製造技術」
- ・HP「日本古代史ネットワーク」

[大韓民国の地形図、標高、地勢 \(topographic-map.com\)](http://topographic-map.com)

[季刊「古代史ネット」第3号 | 奴国の時代 ② 朝鮮半島南部の倭人の痕跡 \(nihonkodaishi.net\)](http://nihonkodaishi.net)

【参考】

< 史書が表している朝鮮半島及び倭の地理 >

- ①『魏志韓伝』(撰者は西晋代(3世紀)の陳寿)；「韓在帶方之南 東西以海為限南與倭接」
(韓は帶方の南に在り。東西は海を以って限りとなし、南は倭と接す。)
- ②『後漢書韓伝』(撰者は南朝宋代(4世紀)の范曄)；「韓有三種 一曰馬韓二曰辰韓三曰弁辰
馬韓在西有五十四國 其北與樂浪南與倭接」(「韓は三種あり。一は馬韓といい、二は辰韓と
いい、三は弁辰という。馬韓は西に在りて54四ヶ国あり。その北は樂浪と、南は倭と接す。)
- ③『宋書倭国伝』(撰者は南朝梁代(6世紀)の沈約)；「倭國在高麗東南大海中」(倭国は高句麗の
南東大海の中にある。)

< 古代の基本色 = 白、黒、赤、青 の原料 >

- ①白； 白土(カオリン)
- ②黒； 二酸化マンガンを含む粘土
- ③赤； 辰砂、ベンガラ
- ④青； 藍銅鉱(アズライト)

*「吉野ヶ里遺跡」では、貝紫を使った染色糸が出土している。

(右写真参照 古代の手法で再現したもの)

